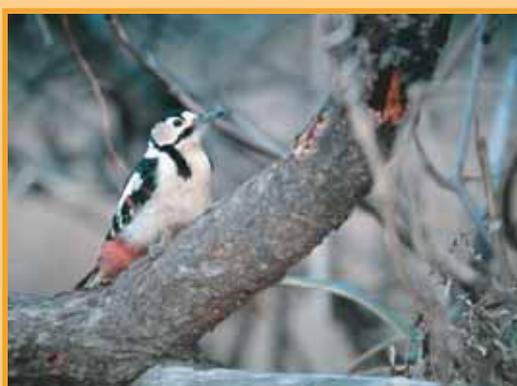


平成15年度

前橋市自然環境調査（鳥類調査）

—概要版—



前 橋 市



前橋市自然環境調査の目的

本調査は、前橋市の自然環境の現況を調査・把握し、良好な自然環境の保全および残された自然の保全等の基礎的データを収集し、過去に実施された調査との比較を行うことによって、「前橋市環境基本計画」に示す環境像「多様な生態系が維持され、市民に潤いと安らぎを与える自然環境が守られ、はぐくまれるまち」、および「市民、事業者が主体的に環境保全活動に参加するまち」を推進することを目的としています。

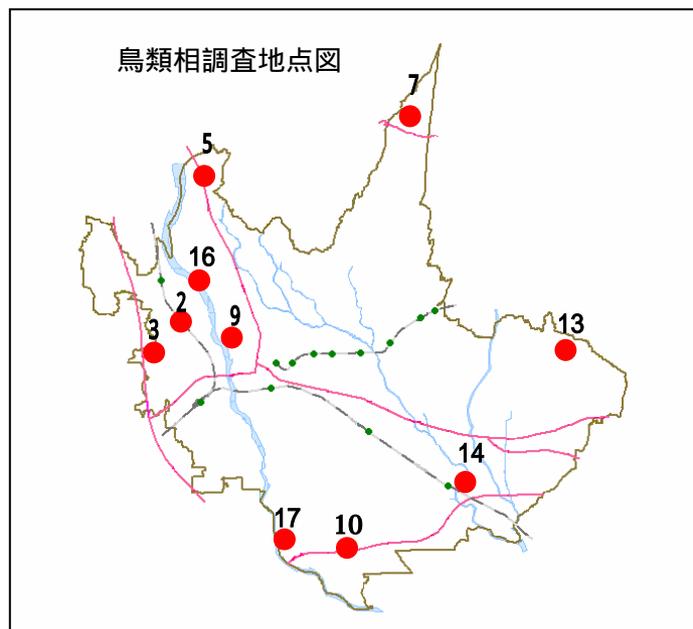
前橋市では、平成 10 年度に動物（鳥類・哺乳類・は虫類・両生類・昆虫類）、植物（植物相・植生）の基礎調査を実施しており、平成 14 年度は植物調査のモニタリングを、平成 15 年度には鳥類調査のモニタリングを実施しました。



調査の概要

本調査は、前橋市による調査と市民による調査で実施しました。調査の内容、期間等の概要は、以下のとおりです。

調査内容	実施者	調査実施日		調査地点
		季節	調査実施日	
鳥類相調査	前橋市	夏季	平成 15 年 6 月 9 日～ 6 月 10 日	基礎調査を実施した 10 地点
		冬季	平成 16 年 1 月 6 日～ 1 月 7 日	
庭に来る鳥調査	市民	冬季	平成 15 年 12 月 14 日 ～平成 16 年 1 月 15 日	市内全域
野鳥観察会	市民	冬季	平成 15 年 12 月 14 日	敷島公園
	市民	冬季	平成 16 年 1 月 18 日	嶺公園



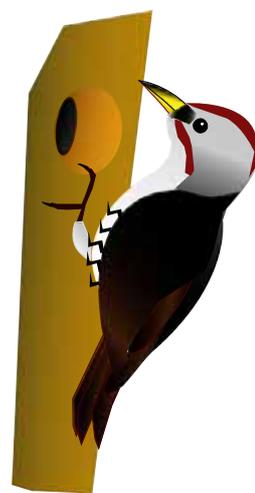
基礎調査では 8 地区 17 地点で調査を実施したが、今回はそのうち 8 地区 10 地点を選定し調査を実施した。

地区・地点		ルート概要
清里・ 総社	2	前橋市の北西境を南北に流れる天狗岩用水と八幡川沿いのコース。主な景観要素は、河川、畑地、住宅。樹林はまばらであるが、愛宕山古墳から天狗岩用水沿いにかけて連続した樹林が存在する。
元総社 ・東	3	前橋市の西境を流れる染谷川沿いのコース。最上流部には小規模な河畔林があった。主な景観要素は、河川、畑地、水田であるが市街化が進んでいる感じを受ける。
南 橋	5	中子池～ホタル水路を有する山合。樹林はコナラ - クリ林で、川沿いにはオニグルミもみられる。水田が多いが放棄されているものもある。橋山の周辺は畑、橋山はスギ、アカマツ、コナラのほか特定植物群落に指定されているアラカシ林がある。
芳 賀	7	嶺公園。コナラ - クリ林とアカマツ林が大部分を占めるが、大堤沼から流れ出す水路沿いの湿地には、湿地性の植物が多くミズバショウやリュウキンカなどが植えられている。
本 庁	9	群馬県庁舎及び前橋市庁舎周辺の市街地を通るコース。都市内の植え込みや公園のほか、利根川河川敷の河畔林などもみられる。
上川淵・ 下川淵	10	前橋市の南部を流れる端気川沿いのコース。水田と緑の多い住宅地、小規模な樹林で構成されるが、高速自動車道等の整備が進んでいる。
桂萱・ 永明・ 城南	13	大室公園から水田、畑地を通して乾谷沼に至るコース。大室公園内にはアカマツ林があるが、コナラやクマシデなども多くみられた。乾谷沼には水生植物群落がある。
	14	桃ノ木川沿いのサイクリング道路を通り、途中から、水田、畑地、住宅が混在する平地を通るコース。桃ノ木川河川敷にはヨシやオギなどの高茎草本群落が多く見られる。
利根川	16	利根川沿いに位置する敷島公園とその周辺部。水道局敷地内の池には夏場はササゴイのコロニーが形成されている模様。この池にはミクリ等、湿地性の植物が繁茂する。敷島公園内は主にアカマツ林である。利根川の河川敷はヨシ、オギ等からなる草地のほかカワヤナギ、タチヤナギなどで構成される河畔林がみられる。
	17	下川団地から、利根川河川敷を通るコース。団地内は植栽が多く、野生植物は少なかった。利根川の段丘沿いにはニセアカシアを主体とする河畔林が帯状に見られる。

基礎調査では8地区17地点で調査を実施したが、今回はそのうち上記8地区10地点を選定し調査を実施した。



嶺公園のカルガモ（2004.1.18撮影）



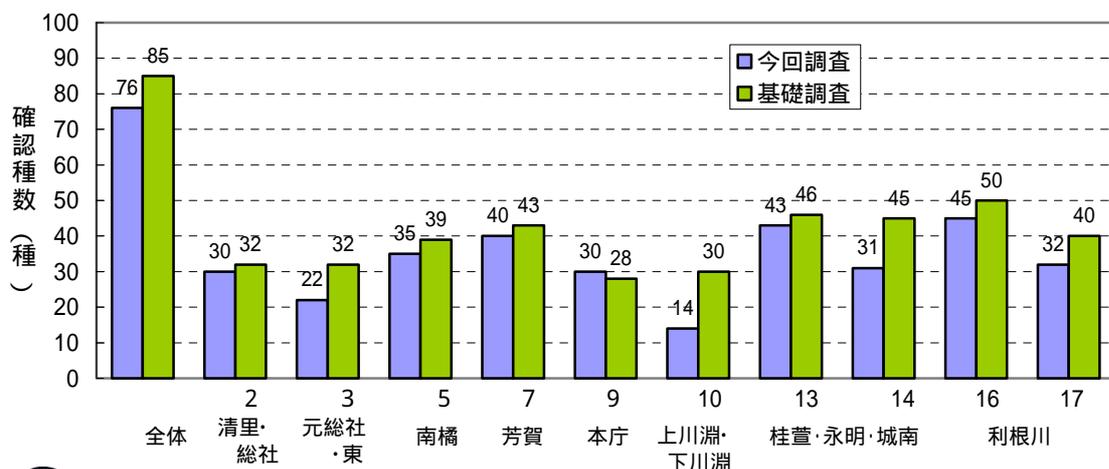
調査の結果



確認種数

今回調査では 31 科 76 種の鳥類が確認されました。なお、平成 10 年度の基礎調査において同一地点で確認された種数は 31 科 85 種でした。

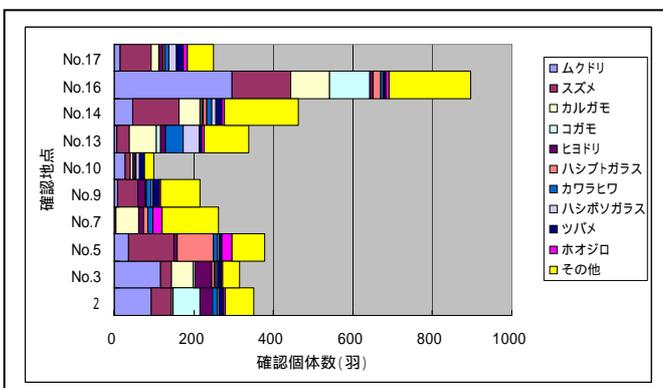
今回調査が繁殖期（夏季）および越冬期（冬季）の 2 季のみの調査であったこと、渡り鳥等については年変動がみられることを考慮すると前橋市全体では種数はそれほど減少していないものと思われます。しかし、地点ごとにみると水辺環境を利用するサギ類、カモ類、チドリ類、シギ類の減少があり、河川などの水辺環境とそれに連なる水田やため池における鳥類の生息環境が変化している可能性が考えられます。



種構成の変化

各地点で確認された種について個体数で比較すると、ムクドリ、スズメ、ハシブトガラスが多くなっていることがわかりました。確認総数が最も多かった 16（利根川地区）では、ムクドリがその 33%を占め、そのほかの種についても、他の地点より多くの個体が確認され、良好な自然環境といえそうです。また、5（南橋地区）ではハシブトガラスの優占が特徴的です。

平成 13 年に実施された「市町村別鳥類生息密度調査報告書」（群馬県 平成 14 年 9 月）では、前橋市における鳥類ではスズメ、カルガモ、ムクドリ、ツバメが優占種とされています。今回の調査結果でも、おおよそ同様の結果となりました。





注目すべき鳥類種

今回調査の結果において、注目すべき鳥類種としたのは、カワウ(ウ科) オオタカ、ハイタカ(以上タカ科) チョウゲンボウ(ハヤブサ科) コアジサシ(カモメ科) ヤマセミ、カワセミ(以上カワセミ科) メボソムシクイ、サンコウチョウ(以上ヒタキ科) カオジロガビチョウ(チメドリ科) の計7科10種です。

これらの種は、「群馬県の絶滅のおそれのある野生植物」などに該当する希少種や、本来日本にいなかった外来種で今後の動向が注目される種などです。



注目すべき鳥類種 オオタカ

地区・地点 科名・種名		清里・総社	元総社・東	南橋	芳賀	本庁	上川淵・下川淵	桂萱・永明・城南		利根川		出典
		2	3	5	7	9	10	13	14	16	17	
ウ	カワウ	-	-	-			-					地
タカ	オオタカ	-	-			-	-			-	-	R, VU、
	ハイタカ	-	-		-	-	-	-	-	-	-	NT、
ハヤブサ	チョウゲンボウ	-	-	-	-			-	-	-	-	稀
カモメ	コアジサシ		-	-	-	-	-	-	-		-	VU、
カワセミ	ヤマセミ	-	-	-	-	-	-	-	-	-		地
	カワセミ	-		-		-	-	-	-			地
ヒタキ	メボソムシクイ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	地
	サンコウチョウ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	**
チメドリ	カオジロガビチョウ	-	-		-	-	-		-	-	-	地

表中の記号凡例

：確認された注目種

出典

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(2000年、環境庁)

R: 国内稀少野生動植物種

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物」(2000年、環境庁)

NT: 準絶滅危惧種 VU: 絶滅危惧 II 類

「群馬県の絶滅のおそれのある野生植物のリスト」(群馬県ホームページ)

** : 群馬県絶滅危惧 類 : 群馬県準絶滅危惧種 : 群馬県情報不足

「第2回緑の国勢調査 第2回自然環境保全基礎調査」(環境省、1983年)

稀: 稀少種

その他

地: 地域的に注目すべき鳥類とした種



庭や身近な公園には、どんな鳥が来るのかな？

- 市民が参加して「庭に来る鳥調査」と「野鳥観察会」を実施しました -

庭や身近な公園にはどんな鳥が来ているのでしょうか？市街地でも、実のなる樹木があれば、意外にたくさんの鳥が訪れているものです。また、庭の環境だけでなく、周辺の自然環境によっても訪れる鳥の種類は変わってきます。

確認された鳥類種

「庭に来る鳥調査」では市内 50 地点から、23 科 46 種が報告されました。

最もたくさんの地点で確認されたのはスズメ（48 地点）で、次いで順にヒヨドリ（45 地点）、メジロ（37 地点）、ムクドリ（32 地点）でした。

なかには庭には珍しいルリビタキ、ヤマガラなど森林性の種も確認されました。これは、自宅周辺に良好な樹林地があったことが理由と考えられます。公園や河川敷で調査をされた方からは、オオタカやコサギ、カモ類などの鳥の確認も報告されました。

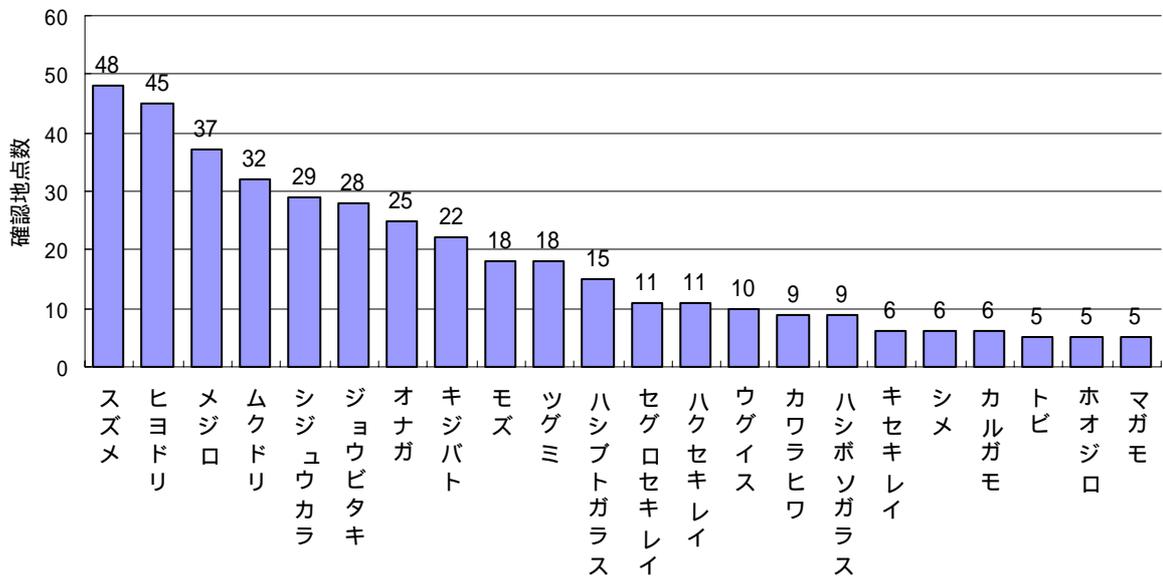
また、12 月（敷島公園）と 1 月（嶺公園）に実施した「野鳥観察会」では、ホオジロ、ノスリ、アカゲラ、シロハラなどたくさんの種を観察することができました。



野鳥観察会の様子（2004.1.18 撮影）

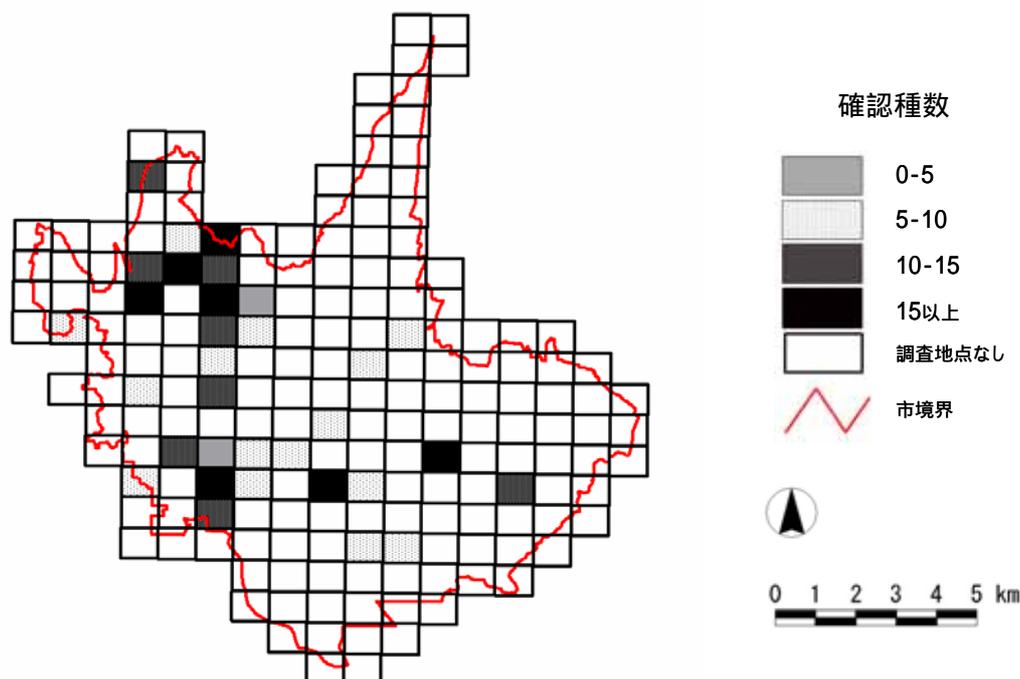
これからも、これらの鳥が生活できる環境をわれわれの身の回りに保全していくことが大切です。

「庭に来る鳥調査」種類ごとの確認件数



市内のメッシュごとの確認種数

「庭に来る鳥調査」で確認された鳥の種数を、メッシュ（1 km 四方）で区切った図で示しました。メッシュごとに調査地点数等が異なるため、一概にはいえませんが、市の西部、利根川沿いのメッシュで種数が多くなっていました。また、市の中央部と西部で種数が多くなっていくメッシュは、桃ノ木川沿いの田んぼや畑が多い地域と、八幡山公園から広瀬川にかけての地域でした。



調査参加者の声 ご参加ありがとうございました

- ・ 小さな狭い庭でこんなに色々な鳥が見られたのには驚きました。調査終了後も続けて、もっと沢山の種類を見たいと思っています。
- ・ 生物多様性などと、大げさな事を言わなくても、野鳥が冬の間、餌に困らない様にするため庭先にピラカンサ、マンリヨウ、ナンテン等の実のなる樹木を増やそうと思いました。野鳥は環境のバロメーター、野鳥が多い町は自然が豊かな町、と言われる前橋にしたいと思っています。
- ・ 数字に出してみるとびっくりする位の数と種類でした。何気なくスズメと思って見ている鳥も、中にはアオジもありました。
- ・ 嶺公園ではとても天気に恵まれ、沢山の鳥の名前をおぼえました。スケーティングをしていたカルガモやマガモ、コガモの区別もよくわかり、口ばしのふといシメにも出会えました。残念な事に、松枯れで、林のところどころがやられていました。

表紙の写真（左から）アカゲラ、アオサギ、ヒヨドリ

裏表紙の写真 ジョウビタキ

写真提供：吉成 才丈 イラスト：阿川 洋子



前橋市生活環境部環境課

〒371-8601 群馬県前橋市大手町二丁目12番1号

TEL：027-890-6292（直通）

※写真、イラストの無断転用を禁止します。